

めざす姿

V 生命の持続を先導する社会

⑬

カーボンニュートラルな暮らし

自然との共生が  
日々の暮らしに浸透し  
地域と世界の持続可能性が  
高まる社会

例えば

- 脱炭素を志向するライフスタイルが定着する
- 水素社会が実現し、エネルギー自立の地域が広がる
- 失われた自然を復活させる取組で世界を先導する
- 農村・森林が防災、生態系保全などの公益的機能を発揮する
- 豊かな森が甦り、野生動物と人の営みの共存が進む

- 大量に生産、消費、廃棄する時代は終わります。移動手段の脱炭素化が進み、再生可能エネルギー由来の電力を使う住居も普及し、衣料・食料などでも脱炭素を志向するライフスタイルが定着しています。
- 究極のクリーンエネルギーである水素の利用が広がっています。水素発電が実用化され、水素自動車も普及し、世界に先駆けて兵庫の地で水素を基幹エネルギーとする「水素社会」が実現しています。
- 地域の再生可能エネルギーによる電力供給を柱に、公的サービスを提供する新しい形の公社が増えています。地域でエネルギーを自給し、災害にも強い、スマートコミュニティが広がっています。
- 暮らしを支える生態系サービスへの理解が広がっています。コウノトリの野生復帰や尼崎21世紀の森づ

くりをモデルに失われた自然や生態系を復活させる取組が進み、世界の自然再生を先導しています。

- 農村や森林が有する公益的機能への理解が深まり、防災、生態系保全、水源涵養、景観形成などの価値を生むものとして、農林業が大切にされています。
- 林業経営に適した森林が区分され、植林、保育、伐採、利用のサイクルを回す持続可能な林業が営まれています。その他の森林は共有の財産として地域で保全・管理され、自然体験などに使われています。放置林や所有者不明林は解消しています。
- 豊かな森づくりが進み、野生動物の生息域が甦っています。野生動物の保護管理の仕組みも整い、人の営みとの共存が実現しています。森や草原の希少種が保全され、イヌワシが空を舞っています。

### 〈アクション例〉

- 移動、電力、食など日々の生活でカーボンニュートラルを実践しよう。
- 兵庫を「水素社会」の先進地にしよう。
- 再生可能エネルギーによる電力供給を柱に、地域に必要なサービスを提供する新しい形の公社を作ろう。
- 白砂清松、水辺、せせらぎなど、身近な自然と生態系を

復活させる取組を各地で進めよう。

- いろいろな形で県産木材の利用を広げよう。

#### 「生態系サービス」とは？

生物多様性を基盤とする生態系から得られる恵みを正しく評価するための概念です。①食料等の供給サービス、②気候等の調整サービス、③生息・生育地サービス、④景観等の文化的サービスの4つの側面があります。

自然の豊かさを  
享受する暮らしが  
各地で営まれ  
大都市集中が緩和した社会

例えば

- 県土の多様性を活かした二地域・多拠点の暮らしが広がる
- 住民主導・人間中心のまちづくりが進む
- 魅力ある風景が地域への愛着を育む
- 山、川、海を楽しむライフスタイルが広がる
- 住みたい場所を自由に選べる仕組みが整う

□社会のデジタル化に伴い、人口の大都市集中が緩和し、自然に近い場所で暮らす人が増えています。都市と多自然地域が近接する県土の多様性を活かしてワーケーションや二地域居住、多拠点居住のライフスタイルが広がり、副業で農業や狩猟に携わる人も増えています。地域で暮らす人々の営みが自然環境や生物多様性の保全につながっています。

□古民家をはじめ空き家を活用して魅力的な暮らしをする人が増えています。いろいろな住まいを選べるようになり、一生賃貸で暮らす人も増えています。

□自らの力で地域をより良くしようとする協働のまちづくりが根付いています。住民主導のエリアマネジメント組織が各地に生まれ、人間中心にデザインされた街路や賑わいを生むオープンスペースが増え、歩いて楽しめる魅力的なまちが形成されています。

### 〈アクション例〉

- 安心して二地域・多拠点居住ができる環境を整えよう。
- 自分たちの力でまちづくりを進めよう。まちづくりにいろいろな人が参加できるプラットフォームを作ろう。
- 民間企業やクリエイターを巻き込んで地域をより良い空間にする取組を進めよう。
- 県内を歩いて巡れるフットパスを整備しよう。

□風土、歴史、文化などに根差した地域の風景をつくる取組が広がっています。その地の風景が住民の誇りとなり、地域への愛着を育んでいます。そうした地域で楽しく生きる大人を見て育った子どもたちは大人になっても地域と関わり続けています。

□山、川、海へのアクセスが整い、兵庫の豊かな自然を楽しむ人が増えています。県全域を歩いて巡る道（フットパス）が整備され、人気を集めています。

□定住を前提としない住民票や住民税の制度が整い、公的なサービスも共通化し、住みたい場所を自由に選べます。選挙は電子投票になり、どこにいても自分が参加する自治体の選挙に投票できます。

□デジタル化により自治体運営が高度化しています。意思決定過程は透明化され、多様な主体の集合知を活かす仕組みで施策の精度が高まっています。

□自治体運営のデジタル化・透明化を進めよう。

### 「都市化」から「開疎化」へ

大都市に人が集まり、それ以外の空間が置き去りにされる「都市化」がこれまでの潮流でしたが、コロナ禍により、密集、密閉をリスクとして避ける意識が生まれ、開放された「疎」な空間（豊かな自然環境や自然に囲まれた中小都市）に向かう人の流れが生まれています。

めざす姿

V 生命の持続を先導する社会

⑮

暮らしの持続に貢献する産業

## 兵庫発の 環境エネルギー・健康医療産業などが 暮らしの持続可能性を 高めている社会

例えば

- 暮らしの持続可能性を高める産業が集積する
- 環境エネルギー産業と健康医療産業の拠点になる
- 資源循環、食料生産などの新分野にもものづくり産業が進出する
- 先端科学技術基盤を活かして人類の課題を克服する
- 兵庫の社会課題解決モデルを世界へ発信する

- 暮らしの持続可能性を高める産業が集まる地域として兵庫の名が世界に知られています。海上空港と国際戦略港湾を有する日本有数の地の利を活かし、環境エネルギー、健康医療、ロボット、航空宇宙、新素材、海洋開発、防災などを手掛ける企業が集積し地域の新しい基幹産業となっています。
- 神戸医療産業都市を中心に健康医療産業の世界的な集積地になり、生命科学の最先端をリードする研究開発の成果が続々と生まれています。
- 「水素社会」を支える水素関連産業が兵庫に集積しています。臨海部に水素の受入・供給基地が立地してプラントの製造や技術開発を行う企業が集まり、新たな事業者の参入も進んでいます。水素を中心に

- 環境エネルギー産業の一大拠点になっています。
- ものづくり産業が先端科学と融合して進化し、資源循環や食料生産など新しい分野に進出しています。
- 県内に立地する世界最高水準の科学技術基盤を活用し、大学や研究機関、企業が連携して、人類の課題を克服する研究成果が次々と生み出されています。新技術の実装に向け、様々な社会実験が県内で行われ、県民も試行錯誤のプロセスに参画しています。
- 多様な地域特性が凝縮された「日本の縮図」兵庫における社会課題の解決に向けた取組が国内外のモデルになっています。兵庫の企業や地域の取組が広く発信され、そのアプローチを学びに国内外から多くの人が県内各地を訪れています。

### 〈アクション例〉

- 水素関連産業を基幹産業として育てよう。水素を中心に環境エネルギー産業の一大拠点を作ろう。
- 神戸医療産業都市を核に健康医療産業を盛り上げよう。
- 中小企業の新分野進出を応援しよう。
- 大学・研究機関と企業間の連携をもっと強めよう。世界有数の科学技術基盤を活かして研究開発を進めよう。
- 公民連携のプラットフォームを活かして、新しい課題に挑戦する人材と企業を呼び込もう。

- 兵庫の社会課題解決モデルを世界へ発信しよう。

- SDGs No.9「産業と技術革新の基盤をつくろう」**
- ①持続可能かつ強靱で包摂的なインフラの開発
  - ②包摂的かつ持続可能な産業化の促進
  - ③金融サービス及び市場へのアクセスの拡大
  - ④持続可能性のために全産業とインフラの改善
  - ⑤研究の促進と産業技術の向上
  - ⑥途上国のための持続可能なインフラ開発促進
  - ⑦国内における技術開発と産業の多様化の支援
  - ⑧ICTへの普遍的なアクセス